

社団法人 埼玉私保連



広報

No.110

2011. 3. 31

発行



「きょうはぼくがお当番！」

Saitamaken Siritu Hoikuen Renmei

埼玉県保育団体合同の集い

～子ども・子育て新システムに危惧を抱き、児童福祉を守る集い～

期日：2011年1月17日(月)

場所：埼玉会館 小ホール

主催：日本保育協会 埼玉県支部、埼玉県私立保育園連盟
さいたま市私立保育園協会、埼玉県保育協議会

保育4団体（日本保育協会埼玉県支部、埼玉県私立保育園連盟、さいたま市私立保育園協会、埼玉県保育協議会）主催のシンポジウムが開催されました（参加者約500名）。日本保育協会の大鹿埼玉県支部長の司会進行のもと、埼玉県私立保育園連盟森田会長より「今後も埼玉県4団体が一つになって行動を共にしていきたい」と挨拶があり、その後、埼玉県保育協議会吉田会長がコーディネーターを務め、「子ども・子育て新システムで日本の保育はどうなる」をテーマに4人のシンポジストから意見が述べられました。



1. 発言者順に発言要旨抜粋

①菊池 繁信 氏（全国保育協議会副会長 基本制度ワーキングチーム構成員）

子育てを社会全体で支援していこうという理念を持ち、保育園で保育を受けている子どもだけでなく、全ての子どもが保育を必要とする対象として取り組むべきだ。そのために、公的に保育の必要度と量を認定し、保護者にはその認定された保育時間を、自分で選択した施設（子ども園）で受けさせる権利を保障すべきである。その他 職員処遇、職員配置基準、減価償却費問題についての意見。

②若盛 正城 氏（認定子ども園「こどものもり」園長 子ども指針〈仮称〉ワーキングチーム構成員）

子ども指針ワーキングチームでは、今回のこの制度改正を「千載一遇のチャンス」ととらえ、質の高いものとしたと考えている。保育所・幼稚園は制度の違いによって二極化してしまっているが、子どもの育ちに差別、区別はないので「子どものための指針は一緒が良い」のではないかと考えている。資格により処遇の違いの問題に区別されることなく、質の高い幼児教育、保育が一体的に提供できるよう「子どもと子育ての理念」についての検討が行われているとの経過説明。「こどものもり」の事例をあげ、子どもの育ちを最優先にして、遊びながら身につけていく保育と集団を通して学びを身につけていく教育とが融合された幼保一体化の子ども園の説明。

③高田 彩文千 氏（保護者代表）

自分の夫が保育園時代に画いた絵を示しながら、子ども同士が集団生活の中で触れ合い、成長していく様子を説明した。もし新システムになれば、保育は細切れの定型保育や一時保育となり、一日の中で子どもの出入りが多くなり、集団を作ることが出来なくなってしまう。

④伊藤 周平 氏（鹿児島大学法科大学院 教授）

今回の保育制度改革構想は、当初は待機児問題解消策として動き始めた。しかし現在の状況は、行財政改革の手段として幼保を一体化し、行財政の無駄をなくし、厚労省と文科省と二元化していた行財政制度を子ども省（仮称）に一元化することだけが目的となってしまった。子どもの利益を最優先する児童福祉法の精神が後退して、おとなの都合が優先された。その結果、子どもの利益は無視されてしまうことになった。

2. 4人のシンポジストの意見発表を受けて会場からの意見交換

「今後の社会福祉法人はどのような状態になるのか?」「基本制度ワーキングチームでは、24条の問題や子ども達を将来どのように育てたいかの話し合いがなされたか?」「子ども指針ワーキングチームでは、時間により認定が違う場合、子ども達に等しく保育が受けられるか等の検討がなされたか?」「今は国が900兆円もの借金を抱える時代、我々も痛みを分かち合う時代ではないか?」

「子どもの権利というが、認可保育所に入れなく認可外保育所に通う子どもにも権利があるのではないか?」等の意見が出され、それについて、シンポジストより解説があり、シンポジウムは終了しました。



保育4団体主催による成果として、さいたま市私立保育園協会の剣持会長より「子ども・子育て新システム」に対するアピール（案）が朗読され、拍手をもって採択されました。また、埼玉県議会では平成22年12月22日、日本保育協会埼玉県支部主導による「理念なき幼保一体化に関する反対の意見書」が可決されたこと、これが衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、厚生労働大臣、文部科学大臣、少子化対策担当大臣へと届けられたことなどが報告され、今後も子どもの最善の利益のため議論を重ね、要望していくことを約し、拍手をもって閉会となりました。

保育士研修会報告

議 題：「子どもの笑顔あふれる保育をするために」

日 時：2011年2月16日(水) 午後1時20分～

会 場：さいたま市民会館うらわ 503・505

講 師：星野 優美子 氏

保育をめぐる動向が混沌としている中での保育士研修会を2月16日に行いました。参加者が約80名と会場が満席になる中での開催となりました。

星野先生はさいたま市内の認可園で就学前の年長児を対象に「ハッピーコミュニケーション」を選択理論心理士とPCMトレーナーの両方の手法で定期的に指導を行い、講演や講師として日本中を飛び回るお忙しい生活を送っておられます。今回は保育士



の日々の保育の振り返りや先生が保育園とかかわる中で感じたことを先生流にアレンジして、一人でも多くの保育士さんが保育を行うことがどんなに素敵なことか…言葉かけや子どもの見方の視点を変えることで保育士も子どももハッピーになれるんだ！というきっかけをお話しして下さいました。

アイスブレイキングやアクティビティなども取り入れ、楽しく学ぶことができました。その中で、「上質世界」のお話をさせていただきます。心の栄養（基本的欲求）のひとつで自分がそのことをイメージすることで、満足したり頑張れたり、という自分を満たすものが頭の中にあるイメージ写真（上質世界）にそれぞれが想像していく…例えばサッカーが好き、子猫が好き、スノーボーに行きたい、おいしいものが食べたい…人にはたくさんの欲求があり、

隣の人と自分の欲求を書き出し、そのことを話すことでとても笑顔があふれていきます。○とか×ではなく「みんな違ってみんないい」子どもも大人も多くの上質世界を持つことができる心の余裕が日々の生活の栄養になるのかなあ…と思いました。

人を動機づける5つの心の栄養とは

- 1 生存の欲求
- 2 愛所属の欲求
- 3 力の欲求
- 4 自由の欲求
- 5 楽しみの欲求



人間関係をよくする身に付けたい習慣

- 1 傾聴する
- 2 支援する
- 3 励ます
- 4 尊敬する
- 5 信頼する
- 6 受容する
- 7 意見の違いについて交渉する

人間関係を破壊する致命的習慣

- 1 批判する
- 2 責める
- 3 文句を言う
- 4 ガミガミ言う
- 5 脅す
- 6 罰する
- 7 自分の思い通りにいようとして褒美で釣る



日々の保育の中でどうしても自分を責めてしまったり、他人を責めてしまう場面もあると思います。私たちが保育士である前に一人の人間として上質世界をもって心の栄養もたくわえて、子どもたちにかかわることができたら今まで以上に子どもや保護者と素敵な人間関係が築けるのかもしれないという、明日からの保育への期待が広まる有意義な研修会でした。ありがとうございました。

青年会議研修会報告

「おもちゃを知ろう」「最新のドイツおもちゃ事情」

2月24日(木)に埼玉保桶川事務局において細川氏を迎え、ワークショップ形式の研修会を行いました。世界のおもちゃについて詳しい細川氏からの視点で今回は、ドイツのおもちゃを実際に持ち込んでもらい赤ちゃんのおもちゃをはじめ、様々なおもちゃの意味や目的について説明を頂きました。参加者は、実際に赤ちゃんのおもちゃに触れ、五感に感じる事の大切さを改めて感じとることが出来ました。

最後に参加者全員で廃材(材料・ダンボールとペットボトルのキャップを使用)を使った、ワークショップを行いました。

【写真参照】

参加者全員で体験し楽しみながら、おもちゃの奥深さについて改めて理解を深めることが出来た研修会でした。



施設訪問ごんじちは

訪問先 (さいたま市)

うらわライトハウス保育園

園長 関口 妙子先生

JR京浜東北線北浦和駅東口を出てすぐ、昼夜相当数の電車が行きかう線路沿いに名前の如く灯台のように位置するうらわライトハウス保育園。園庭からは本当に手が届きそうなくらいに駅のホームがあり、同じくさいたま市内にある鉄道博物館をも想像させる電車好きの子どもたちがワクワクしそうな保育園にお邪魔させて頂きました。

関口妙子園長先生に質問形式でお話を伺いました。

Q) 創立時のお話をお聞かせ下さい

A) 平成8年、無認可保育施設として園児27名でスタートしました。北浦和駅前で大人にとつての便利さと子どもの環境は反比例し、また建物も専門学校という保育施設でないところから始まり、色々工夫ややりくりする中で一番の支えは理事長の理念でした。「何かを変えたいなら、まず自分が変わることで。自分が変革の発端なることだ。」当時78歳、常に前を向いて解らないことは解かるようになっていく、努力する前に出来ないとは思うなど、行動して判断することを率先していました。今も保育園で子どもたちの歌声のリードをとる「ピアノ保育園」を創設したとき、子どもたちのた



めに出来る現場の仕事の一步として、自ら園長と一緒に新宿のピアノセンターに向ききひとつひとつ耳を傾けながらピアノを選んだものでした。当時特別養護老人ホームの理事長もしており、子どもたちの笑い声、泣き声がどんなにか新鮮に感じるとうれしい悲鳴をあげていました。理事長の想いは一貫してIC (Initiatives of Change (イニシアティブス・オブ・チェンジ)・・・スイスに本部を置き国連に認定を受けた国際NGOとして世界50カ国以上で世界の平和と融合に資する活

動を行っている団体)の基本理念の元に立ち、当時より職員はこの理念を保育に取り入れ理事長・園長をはじめ毎年研修に参加し、世界の子どもたちの現状をその国の若者から聞くことで何が出来るかを日本の子どもたちに伝えていかなければならないと考えてきました。他の意味で職員は英語の出来ないもどかしさ、自分の気持ちをグローバルに広げていく大切さを知りました。その行動の柱には、「誰が正しいか」ではなく「何が正しいか」を考えてよりよい社会と世界の実現のために行動する”、そして「子どもたちにとって」を念頭に考えています。平成15年常勤職員12名の給料の安定化と園児27名の保育料の不均衡さの解決のため、社会福祉法人化に向けて理事長、園長二人の役所行脚が始まりました。理事長の想いがどれだけのものなのか、今卒園時期に保護者の方々が口々にこぼされる中に子どもたちの未来を常に見てきたことが感謝され、それらが何よりと感じています。



Q) 保育園名の由来をお教え下さい

A) 従前のICの創設者(フランク・ブックマン博士)から「榊(理事長)、あなたは日本に帰ったならアジアの灯台になれ!」と言われたのがきっかけです。子どもたちが卒園しても、道しるべとしてこの保育園はあり、いつでもこの明かりを頼って欲しい、また、グローバルな考え方もあって世界に飛び出して欲しい、世界中のどこに行っても灯台としてこの保育園はここにあってほしいと思っています。卒園時期には必ず子どもたちに「迷ったならここを尋ねなさい。どんなときにも先生は明かりとして待っているのだから。」と伝えます。小学生になる子どもたちの不安を大きくさせないように、小学生の受け入れを6年生までに行っているのも子どもたちの灯台として見守り続ける由縁です。『うらわライトハウス保育園』は『うらわの灯台』ということですが。

Q) 理念・保育についてお聞かせ下さい

A) 保育の理念は「子どもたちがのびのびと生活し、豊かな情操が育まれるように努めます。働く母親・父親を支援し、ともに子どもたちを育てあう環境づくりと、子どもも、大人も：年代を超えて、地域で生き生きと暮らせる場づくりに努めます。」で、保育には「見守る保育・コーナー保育」を取り入れていきます。子どもたちは、何も出来ないところからできるようになるのではなく、必要の無い力を捨てていってしまいますから、過



度な援助や補助をせず、子どもが何を求めているのか、何を必要としているのかを見守って援助、補助をすることで自立を促します。「コーナー保育」では、子どもたちが、自分の遊びに集中できる環境を通して成長・発達していくことを保障するように努めます。また、体験・経験から教育面も備わるようにしていきます。

Q) 給食についてお聞かせ下さい
A) 生まれて初めて口にするものを努めて安全なものにしたいと考えます。おかゆから始まり、お米を出来る限りの無農薬米・減農薬米の玄米食で供します。食材も安心なものを心掛け、野菜を中心にし、また、子どもたち自身の配膳により自分で食べる量を判断し、伝えられるようにしています。また、年間を通して100坪ほどの畑を見沼田んぼに借り、自然環境への参加と、労働としての畑作業を取り入れ野菜の種まき、苗の植え付け、収穫までの作業を通して収穫の喜びを食につなげる体験をしています。



Q) その他、園長先生の思いや今後の展望等ありましたらお聞かせ下さい

A) 駅近辺は大人にとっての環境は決して良いとはいえません。何が不都合であるのか、どうすればよいのか、を恒常的に考え、とどまることをしない体制で、保育園の中の改造も出来る限り子どもに良い方向で保育室の改築や修繕を行なってきました。多くの方のご意見を参考に明日の保育につながるようがんばっております。何かこうすればいいのではと思われることがありましたらお声を聞かせていただきたいと思います。

東北地方太平洋沖地震被災地支援募金活動への協力について（お願い）

既にご存知のとおり、平成23年3月11日に発生した地震により東北地方・関東地方を中心に未曾有の被害をもたらされています。被災地の保育所及び子どもと子育て家庭等を支援するための募金を保育3団体（全国保育協議会、日本保育協会、全国私立保育園連盟）で共同実施することとし、全国保育士会も協力することといたしました。

つきましては、下記のとおり、募金口座を開設いたしましたので、貴都道府県・指定都市内の会員保育所、保育士等に周知いただきますとともに、募金への協力について特段のご配慮をいただきますようお願いいたします。

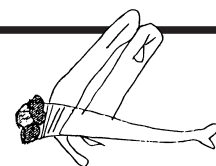
1. 募集期間 平成23年3月17日～4月28日
2. 送金口座
 金融機関：三井住友銀行
 支店名：東京公務部（店番号：096）
 口座：普通預金 167251
 名義：「保育三団体被災地支援募金」
 （ホイクサンダンタイヒサイチシエンボキン）
3. 本件に関するご連絡先
 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国保育協議会 全国保育士会 事務局
 TEL：03-3581-6503 FAX：03-3581-6509

◆◆編集後記◆◆

卒園式の園長挨拶で園児たちにした話は「大きくなったら何になる？」でした。自分の子ども時代のことを話し、当時の東海道新幹線の開通で列島が賑わったこと、その映像が連日流れ、新幹線の運転手になりたかったんだ、という内容を話しました。（歳がばれちゃいますね。）何になるにせよ、震災で亡くなった子ども達の分まで力強く生きていってください。（S・K）

震災により福島第一原発では相当な被害が出ているようです。恐らく現場の職員は容器内圧力の低減策や炉心溶融の対応策を知っていたと思います。しかし、それを実行できなかったのは、仮に事故を未然に防ぐ方法がありそれを実施したとしても、原子炉が廃棄処分になるなら、実行した人が事故を防いだという実績は見えにくい上に、炉を壊した責任まで係ってくるでしょう。今回の事故が長期化・重大化したのは、組織体制によるのも一因だと思えます。（M・K）

事務局 埼玉県私立保育園連盟
 〒363-0015 桶川市南2-7-13 桶川中央マンション2F
 TEL 048(772)8623 FAX 048(772)8635



保育園および園児を さまざまナリスクから サポートします

全私保連
保険制度

園児総合保障
共済制度

上記以外にも、「学童保育」や「園舎の火災保険」などの、
 保険を取り扱っております。
 ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

●
 （社）全国私立保育園連盟指定・
 東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
 TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806